

令和元年6月13日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03515

研究課題名(和文) グローバルプレイヤーとしてのフランスの「影響力外交」の考察

研究課題名(英文) A study on French "diplomacy for influence as a global player

研究代表者

渡邊 啓貴 (Watanabe, Hirotaka)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：80150100

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：私は、フランスの影響力外交として、文化面での対外接触=文化外交の重要性を指摘したい。問題となる外交事象は、外交政策、ビジネス・経済、文化の三角関係の中で位置づけていくことによって、性格づけることができる。ここで「文化」とはひろく価値・発想・思考生活様式に関わるあらゆる表現(芸術の公開、知的交流、言語の普及など)を意味する。文化活動が経済・政治分野とどれだけの親近性を持っているのかという程度によって、外交としての成否の度合いを測ることができる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

この分野の理論的研究は日本ではあまり進んでいない。国際的にも広報文化外交の評価の仕方は大変難しいものとされている。その意味では、外交・政治、ビジネス・経済の分野と結びつけた対外文化活動の研究は先端的研究と言える。また上記のようなアプローチは現実の外交活動や対外経済活動に大いに寄与すると考えられる。

研究成果の概要(英文)：I would like to point out the importance of cultural external contact = cultural diplomacy as France's influence diplomacy. The foreign matter in question can be characterized by positioning it in the triangular relationship of foreign policy, business, economy, and culture. "Culture" as used here means a wide range of values, ideas, all expressions related to the way of thinking (such as the exhibition of art, intellectual exchange, and the spread of languages). The degree of diplomacy's success or failure can be measured by the degree of closeness that cultural activities have with the economic and political fields.

研究分野：国際関係論

キーワード：政治学 国際協力・貢献 文化外交

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

#### 1. 研究開始当初の背景

主査である渡邊は長年フランス外交について研究をしてきた。その際にかつて偉大さの外交を自負していたフランスが次第に「影響力外交」と自称するようになってきたことをもっとも考えるようになった。それが本研究の代位に動機である。

#### 2. 研究の目的

影響力外交とは、ミドルパワーである日本外交を考えるうえで大いに意義があると考えられる。日本は一定の国力と影響力を持つ国だが、アメリカのような超大国がもつグローバルなパラダイムの発想者とはなりえない。しかし世界の潮流の中で秩序形成協力国としての影響力行使の主体になってほしいため。

#### 3. 研究の方法

とくに文化的影響力について渉猟した。確かに歴史的にフランスは文化面での影響力を重要視してきたことは確かだった。しかしそれを歴史系列とイシュー別に分類・リサーチした業績はなかった。

#### 4. 研究成果

残念ながら当初の狙いほどにリサーチは進まなかったが、文化、政治・外交、経済の三角関係の相関関係の中で対外的文化接触や文化イシューの位置づけようという結果に達した。十分ではなかったが、そうした中でイシューの性格を考察した。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 11 件)

渡邊啓貴、パリ・テロ事件に見る西欧の危機と EU 共通テロ政策、福田耕治編『EU の連帯とリスクガバナンス』成文堂、査読無、2016、123 - 146

渡邊啓貴、ヨーロッパから見た「中国の夢」--中国の新秩序構想への警戒、東亜 2016.7.、査読無、no589、2016、94 - 107

Hiroataka WATANABE、Les Relations Japan-Europe en Asie au niveau multilateral、Relations Internationales Le dialogue Asie-Europe janviers-mars 2017、査読有、168、2016、105 - 116

Hiroataka WATANABE、Shouldn't Cool Japan Be Changed?、Discuss Japan Nov14、査読無、35、2016、0 - 0

渡邊啓貴、トランプショックに揺れる欧州、金融財政ビジネス 2016.11.28、査読無、2016、4 - 8

渡邊啓貴、誰が極右ルペン氏に対抗できるか、エコノミスト 2016.12.20、査読無、2016、40 - 41

渡邊啓貴、テロ・難民・移民問題がもたらす欧州統合の危機---仏オランダ政権の試練、法学研究、vol 90 no 4、査読無、2017、144 - 158

渡邊啓貴、2017 年フランス大統領選挙に見るポピュリズム、グローバル・ガバナンス研究、3 月号、査読無、2018、1 - 20

渡邊啓貴、ユーラシアから見た国際政治、JFIR World Review、no 1、査読無、2018、6 - 24

Hiroataka Watanabe、The new Japonisme: From international cultural exchange to cultural diplomacy ; Evaluating the influence of cultural activities on diplomacy、web Discuss Japan September 2018、No 50、査読無、2018、1 - 5

Hiroataka Watanabe、The 160th Anniversary of Franco-Japanese Diplomatic Relations: How France Discovered Japonisme web Discuss Japan September 2018、No 49 査読無、2018、1 - 5

4

〔学会発表〕(計 18 件)

渡邊啓貴、テロ・難民・移民問題がもたらす欧州統合の危機---仏オランダ政権の試練、慶應法学会、2016

渡邊啓貴、EU 崩壊論の虚構--現実主義の統合擁護論、グローバル・ガバナンス学会、2016、Hiroataka WATANABE、Les relations Japon-Europe au niveau multilateral en Asie、Centre d'histoire des relations internationales (国際学会)、2016

渡邊啓貴、欧州諸国の安全保障文化の論点と比較研究、日本国際政治学会、2016

Hiroataka WATANABE、International Environment on Migration in Europe、Research on the Public Policies on Migration, Multiculturalization and Welfare for the Regeneration of Communities in European, Asian and Japanese Societies (国際学会)、2016

渡邊啓貴、ミッテラン時代のフランス、日仏政治学会、2017

渡邊啓貴、ポピュリズム比較と国際秩序(フランスの視点から)、グローバル・ガバナンス学

会、2017

渡邊啓貴、フランス新政権と日仏協力の可能性、JIIA 日仏シンポジウム（国際学会）、2017

渡邊啓貴、フランス大統領選挙とポピュリズム、日本政治学会、2017

渡邊啓貴、フランス大統領選・国民議会選挙とマクロン政権、21世紀政策研究所主催研究会、

2017

渡邊啓貴、マクロン政権の政局と欧州ポピュリズム、日仏政治学会、2017

渡邊啓貴、2017年西欧主要国の政局とEU、日本工業倶楽部、2017

渡邊啓貴、フランス大統領選挙・国民議会選挙、早稲田大学、2017

Hiroataka Watanabe、International and Human Relations in the International Society --- Cultural Diplomacy as method for promoting the understanding of Japanese culture---、Kyoto Transdisciplinary & Transnational Forum 2018 “Circle of Emptiness and Wholeness” June 3 2018（国際学会）、2018

渡邊啓貴、日中韓サミット後の一帯一路と日本の戦略 第三の一帯一路：氷上シルクロードと日本 -ユーラシア・パワーシフトの中の地政学とグローバル・ガバナンス、国際アジア共同体学会 2018 春季大会、2018

渡邊啓貴、ユーラシア・アジア共同体と日本---地政学的構造とグローバル・ガバナンス、One Asia Foundation ハノイ、2018

渡邊啓貴、独仏関係の対立と連帯 -ナショナリズムと排外的ポピュリズム、在日仏大使館・在日独大使館、2018

渡邊啓貴、大西洋・ユーラシア関係の中のヨーロッパ、日本防衛学会 2018

〔図書〕(計 4 件)

渡邊啓貴、法律文化社、グローバル・ガバナンス学、2018、282

渡邊啓貴、中央公論新社、アメリカとヨーロッパ、2018、240

渡邊啓貴他、東京外国語大学国際関係研究所/Fondation pour l'Innovation Politique、仏新政権と日仏協力 Le Nouveau pouvoir et la cooperation franco-japonaise、2018、194

Robert Frank & Catherine Horel / Hiroataka Watanabe、Peter Lang、Entrer en Guerre, 1914-1918:des Balkans au monde "JapanWages World War to Become a World Power、2018、423

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。